



ちっと ciT:Communication Improvement Team

今回は専門チームの紹介です！

リハ栄養チーム

リハ栄養とは「リハから見た栄養管理」や「栄養から見たリハ」と定義されています。つまり、「リハで筋力やADLを改善していくための栄養量の検討」や「栄養状態に応じたリハの実施」を行っていくことを意味します。

リハ栄養チームの主な活動としては、リハ部内の勉強会・学術活動・多職種連携の促進などを行っています。最近では【第41回回復期リハビリテーション病棟協会研究大会】で脳卒中患者の入院時の栄養指標を用いてFIMの改善予測を検討した発表を行いました。



がんリハチーム



がんのリハビリテーションとは、「がん患者さんの生活機能と生活の質（quality of life：QOL）の改善を目的とする医療ケアであり、がんとその治療による制限

を受けた中で、患者さんに最大限の身体的、社会的、心理的、職業的活動を実現させること」と定義されています。

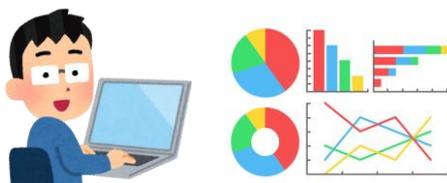
また医師、看護師、療法士（PT、OT、ST）、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、薬剤師など、さまざまな専門職からなるチームによって提供されます。当部では研修を修了したPT6名、OT5名、ST4名が在籍しています。チーム活動としてはがん患者の診療にあたることをはじめ、多職種でのチームカンファレンス、データベースの集積・分析、研修会の参加、勉強会・症例検討会の実施です。

がんという疾患そのものが全て回復過程にあるわけではないため、悲しいお別れになってしまうことも少なくありません。患者さんご本人のみではなく、ご家族様の精神面フォローを含めて良い関わりを提供できるよう日々の一診療を丁寧に行うよう心掛けています。

データベース解析チーム

当院では脳血管疾患や運動器疾患の方を対象に、入院時から退院時までの回復の程度をFIM（機能的自立度評価法）やその他の評価ツールを用いてデータを分析しています。得られたデータを基に、患者さんの回復の程度や期間を予測することや、患者さんのどの点が問題なのかを明確にし、その問題点に対してどのように治療を行うかなど、解析作業を通して『より質の高いリハビリテーションを提供する』ことができるように努めています。

各年度におけるデータを収集し、分析、解析して得られたものをスタッフに還元しながら組織全体での質の向上を図っていきます。



在宅リハチーム

在宅リハは地域包括ケアシステムの構築に必要な一つの重要な役割となっています。

2022年の4月より活動を開始し、症例検討会や介護保険制度についての勉強会を開催してきました。まだ活動回数は少なく、今後はより開催回数を増やし知識・技術・情意・思考過程の研鑽に努めていきたいと考えています。

また、病院から退院した方の経過や現状について担当者に報告し、在宅生活に必要なことについて発信できたらと思っています。参加したい方、待ってまーす。



2023年末企画「吸収力抜群！情報収集が上手な人」決定！

リハ部では年末に一つのテーマを掲げ、部全体から当てはまる方を推薦し表彰しています。今年のテーマは「情報収集が上手な人」！結果は・・・！！



1位 Mさん (福寿)

- 担当でも知らない利用者の情報をたくさん知っていて、ためになる事や助けて頂くことがとても多い。
- 常にいろんなアンテナを張っている
- 担当利用者以外の利用者の情報もしっかり把握している

2位 Sさん (訪問)

- 各施設に顔を出して幅広いつながりを自然とつくり出しているところ
- さりげなく色々な情報を引き出しているところ

3位 Iさん (病院)

- 患者様の全体的な情報を良く読み取っているし、それを共有してくれるので助かる
- いろんな先輩に指導をもらいながら勉強している姿がすごい

Dr森田のみにみに小断 最終回

この度、2024年2月に開業することとなり、2023年12月末をもって記念病院での勤務は終了となりました。2016年6月からの約7年半という短い時間でしたが、理事長、院長をはじめ数多くの先生方、病院職員のみなさんと耳鼻科一般診療だけでなく、手術や嚥下障害診療を行えたことに感謝の気持ちで一杯です。みなさん、ありがとうございました！またどこかで会いましょう。



伊勢ニヤンの独り言

師走の朝、厳しい寒さに耐えるピオラ達、解決できない問題があってもじっくり耐えて熟慮するのが教養と言うそうです。



編集後記

今年もマイペースにリハ部の近況をお知らせしていきますので、よろしくお願い致します。Instagramもぜひご覧ください！！



REHABILITATION.SEIWAKAI

印